



未来型医療創造卓越大学院プログラム  
Advanced Graduate Program for Future Medicine and Health Care

# FM バックキャスト研修

— 石巻赤十字病院 —

(2021年11月8日~12日)



3期 B グループ

## 研修前の知識

私たちのグループは医学系・医工学・薬学の三つの異なるバックグラウンドを持つメンバーで構成されている。メンバーそれぞれが、看護師としての臨床現場での勤務経験、医療機器開発のベースとなる工学の知識、創薬研究のための薬理学・分子生物学の知識といった別々の知識、そして思考法を持って研修に臨んだ。

## 研修の目的・到達目標

私たちのグループは、石巻赤十字病院での研修に際し以下の3つについて理解を深めることを研修目的とした。

## 地域医療

地域医療の現状と課題を把握する。世界に先駆け超高齢化社会に突入している日本における未来の医療を考察し、解決策を考える。

## 災害医療

東日本大震災当時の石巻赤十字病院の状況と災害時における医療の役割を学ぶ。自然災害の多い本邦における、次来る災害への備えとニーズについて考える。

## 救急医療

ASU バックキャスト研修で訪れた東北大学病院救命救急センターと中核病院として高度救命センターを担う石巻赤十字病院との役割の違いを理解する。

以上についてグループ間でのディスカッションを通してそれぞれの理解を深め、未来型医療卓越大学院プログラム生として役割を把握する。

また、研修での学びをそれぞれのバックグラウンドと絡めた成果発表を行うことを到達目標とした。



～救命救急センター見学の様子～

## 研修内容

研修は5日間に渡って行われ、病院内の施設見学や講義を通して地域医療に関する理解を深めた。

### <1日目@石巻赤十字病院>

- オリエンテーション、自己紹介
- 講義「病院とは」  
病院機能について
- 講義「地域医療」  
地域医療連携、入退院支援について
- 見学「夜間救急」  
石巻の救急医療体制、施設について

### <2日目@石巻赤十字病院>

- 見学「外科手術」  
手術部の施設及び実際の手術の見学
- 講義「災害医療」  
震災時の初動の記録、医療体制について
- 見学「検査部」、「救急課」、「循環器病棟」  
メンバーの関心のある部署の見学

### <3日目@石巻赤十字病院>

- 講義「高齢者医療」  
高齢者の尊厳を守る医療について
- 講義「褥瘡ケア」  
褥瘡の概要、ケアの提供体制について
- 見学「乳腺外科カンファレンス」  
多職種カンファレンスの見学
- 見学「脳神経内科」、「透析センター」、  
「緩和ケアセンター」  
メンバーの関心のある部署の見学

### <4日目@南三陸病院>

- 訪問「石巻市震災遺構 大川小学校」  
遺構の見学
- 見学「訪問診療」  
南三陸病院にて訪問診療の見学

### <5日目@石巻赤十字病院>

- 成果発表  
研修を通して学んだ成果を一人ずつ発表、  
ディスカッション

## 研究・仕事に活かせる点

### 病院ごとの役割 (A)

私は看護師として東北大学病院での勤務経験がある。東北大学病院は治療をして地域に帰ることが目標であったが、石巻赤十字病院は患者様の治療の場であり生活の場であることを学ぶことができた。また、病院によって患者様への介入目的が異なることを理解することができた。私は緩和ケアの質を評価する研究を行っているが、病院ごとに役割が異なっていることを念頭におく必要があると考えた。

### 透析センター (B)

見学を通して、受け入れ態勢や透析治療の概要について学んだ。印象に残ったのは、透析には大量の水が必要であり、震災の際は水の確保に苦労したという話だ。一方で透析を必要とする患者は一定数存在し、病院側、患者側双方で課題があることを知った。

現在は光技術を用いた非侵襲血糖測定の手法について研究を行っているが、少しでも透析が必要になってしまう人を減らすべく、研究に取り組みたいと感じた。

### 薬の作り方、使い方 (C)

これから待ち受ける超高齢化社会に向けて、新薬のコンセプトや開発のアプローチの仕方にも変化が必要だと感じた。高齢者のポリファーマシーの一因は、不眠や体のあらゆる部位の痛みなど様々な不調を訴えたときに、一つ一つの症状に対する薬が処方されていることである。この方法では根本的な原因は取り除けておらず、長期間薬を飲み続けなければならない場合もある。このような高齢者の慢性的な不調を治すには、従来のような対症療法ではなく、不調の根本原因を見出し全身の体調を整えることに主眼を置いた薬が必要だと感じた。



～「褥瘡ケア」講義の様子～



## 影響を受けたこと

### 災害医療 (B)

東日本大震災時の対応と災害医療の体制について講義を受けた。災害時は“支援メンバーが健康に帰って来るまでが支援である”ということ、“超急性期だけでなく慢性期までの全体像を俯瞰した上でどんな支援が求められるのか考えるのが重要である”という2点が講義の中で印象に残った。震災時の初動の記録を映像と共に振り返りながら講義を受けたことで、私たちが日々の備えが大切であるということを再認識できた。

### 病院の機能の変化 (A)

南三陸病院見学では地域の過疎化により病院の体制・あり方が変化していることに気づくことができた。現在の医療形態は10年後20年後にも同様であるとは限らず、未来を見据えた思考で研究を行う必要があることに気づくことができた。また、変化がある場所には新しいニーズが生まれるため、常にアンテナを張り、解決すべきニーズを考えていきたい。

### 高齢者医療 (C)

『過少でも過剰でもない医療』が高齢者医療において重要であるというお話がとても印象に残った。人生の最期に本人との意思疎通が難しく、本人の希望がはっきりとわからないという場面がある。こういったときは本人の希望を類推するしかないのだが、ともすると無意識に家族の希望にすり替わってしまう恐れがある。本人の意思を尊重して最期を迎えられるようにするために、まだコミュニケーションが取れる若いうちから家族や医療者などと繰り返し話し合う、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）が重要であると学び、自分も実践していこうと思った。



～南三陸病院にて～

## 授業の限界・来年以降の改善点

今回の研修では見学の時間に対して座学の講義の時間の配分が多いように感じた。講義内容がとても勉強になるものであったのはもちろんであるが、実際に医療現場を訪れている貴重な機会なので、現場の様子を自分の目で見る時間がもっとあると良いと思う。講義の内容によって可能であれば、座学ではなく見学をしながら説明をしていただくという形の方がより理解しやすいのではないかと感じた。

また、授業資料が配布されると授業での学びを研修後も鮮明に思い出すことができ、研修を活かした研究活動に繋がると考えた。

## まとめ

石巻赤十字病院、南三陸病院における5日間の病院見学と講義を通して、高齢化が進む地域医療ならではのニーズ、それを実現するための病院の取り組みについて学んだ。最終日にはメンバーそれぞれの異なる視点から研修を通しての学びを発表し、石巻赤十字病院のスタッフの皆様と議論を深めることもできた。今回の研修を各々の研究に生かし、地域医療の理想像実現に貢献すべく研鑽を積んでいきたい。